

ヴァイブラサウンド発明者 ダン・エステス氏に聞く

「ヴァイブラサウンド体験で何が起きているのか」

ところ：パンサー・メドーズ、シャスタ山

とき：1992年7月12日 7:00 P.M.

インタビュー：山田孝男 / Maya-Kimie Hirooka



専門誌『パイレイ』5.6 合併号より (1994年・株式会社エムエムエイト刊)
<http://www.style21.co.jp>

2014年8月PDF版再編集



感覚便乗（周波数同調現象）から感覚共振へ

山田孝男：ヴァイブラサウンドとボディ・ソニックなどの振動刺激装置との違いを分かりやすく説明してくれますか？

エステス：ヴァイブラサウンドと他の機器の大きな違いは、ヴァイブラサウンドが感覚機能全部に刺激を与えるものであるのに対し、他の機器はある特定の感覚機能しか刺激しないという点にあると思います。

たとえば、ライト&サウンドマシンのゴーグルは光刺激、ボディ・ソニックは物理的な振動だけなので、これらの機器を見た人たちが、この種の機器は限られた特定の効果しか持たないものだと考えているわけです。

一方ヴァイブラサウンドは、感覚機能を刺激するよりも、共振させることに意義があるという理論に基づいて開発されたものです。

私は何年もこの仕事をしてきていますが、感覚遮断や刺激などに対して感覚共振を掲げているのは、私と仕事を一緒にしている仲間だけです。人は様々な理解のレベルを示すものです。

関心をマシンだけでなく、もっと理論にも向けてもらえれば、ヴァイブラサウンドが単なる肉体的刺激ではないことを、より明確に理解できるでしょう。

ですからヴァイブラサウンドを説明するときには、機械やハードウェアについて話すよりも、それから得られる結果や、それを使うことによって到達できるゴールについて話す時間を、もっと取る必要があると思います。



ヴァイブラサウンド・センスエイト

山田孝男：感覚共振（SENSORY RESONANCE）に関して、もう少し話を聞かせてください。

エステス：まもなくみんなは、感覚便乗（周波数同調現象）から感覚共振に合わせるように、話を変え始めると思います。現在の脳の研究は、感覚共振を実証するために使えると思います。感覚共振は、他のすべての理論を説明しようとしていたときに生まれた理論です。

たとえば、フィードバック、感覚遮断、瞑想、ヨガ、禅などは、それぞれに技術やテクニックを持ち、哲学や理論を備えています。この感覚共振理論は、これらのこと全部を理解しようとしたところから出てきたものです。

科学者が提供したデータは使いませんでした。彼らのデータは私の見解を支持するためには使え

ます。たとえば、感覚共振理論と網様体賦活系と松果体の関係について話すことができます。これは、最先端をいく何人かの医学博士や神経科学者、神経外科医、分子生物学者に発表したことですが、これまでのところ誰も面と向かって異議を唱えていません。そこが間違っていると、何かは抜けているとかはまったくなくて、大体「今まで考えたこともなかった」と言います（笑）。

はっきりと私の理論を理解するためには、生化学—電磁—水晶—音楽—哲学的物理学者でないといけないから（笑）。私にとっては、一つの科学しかないのです。間違いは、一つの科学を分割してしまったことにあると思うのです。全部同じ答えを探しているのに、ただ、違う何度から見ているだけだと思います。



感覚共振に勝るものはない

山田孝男：感覚共振は、新しい理論だから人に理解してもらるのが非常に難しい。

エステス：いい例を挙げてみましょう。今の気分と、朝起きて子供たちを学校に送り出さなければならぬとか、これから仕事をしなければいけないとか、いろいろすることのある時の気分との違いは何ですか？

Maya：私は今の方が、五感が全部、ただある一点にフォーカスしているということで、よりヴァイブラサウンドの感覚共振に近いんじゃないかなと思うけど。

山田孝男：まあ、仕事の事とか考えないよね。ただ感じてる。

エステス：答えは、今の方がずっとリラックスしてるってことです（笑）。リラックスしてるでしょ、いつもよりも今の方が。それは何故だと思います？ それは、あなたがたが感覚共振の状態にあるからです。

感覚共振には2つのことだけが必要です。第一に、脅威となるものがないこと。今現在それはまったくありません。雨も、パンサーも、溶岩も流れていないし、地震もありません。MMエイトもない（笑）。通常、脅威の対象となるものがここにはありません。

第二に、感覚整列が必要です。今、共振しているので、感覚整列状態になっています。ただ単に、今いる環境が全体像に合うからです。場違いのものや、ここにあるべきでないもの、また、注意をそらすものもありません。脅威もなく、すべての要素が必要な状態に合うものであるので、感覚共振の体験が生じています。

感じ方として、感覚共振に勝るものはないと思います。「あまりにもすることが多すぎて死んだ方がいい」などという状態よりは、ずっと素敵です。この観点から説明すれば、あまり知識のない人でも理解することができるでしょう。

我われは、もう少しハイテク風にはしているだけです。だから選ぶのは本人の自由です。車を15分運

転してヴァイブラサウンドを体験するために僕に会いに来るか、飛行機でサンフランシスコに来て、車を5時間運転してシャスタ山の森の中に来るか、どちらでも好きな方を選んでください(笑)。



瞑想のプロセスと脳波活動の関係

山田孝男：では、感覚遮断でも感覚共振と同じ状態が作り出されるのだろうか。

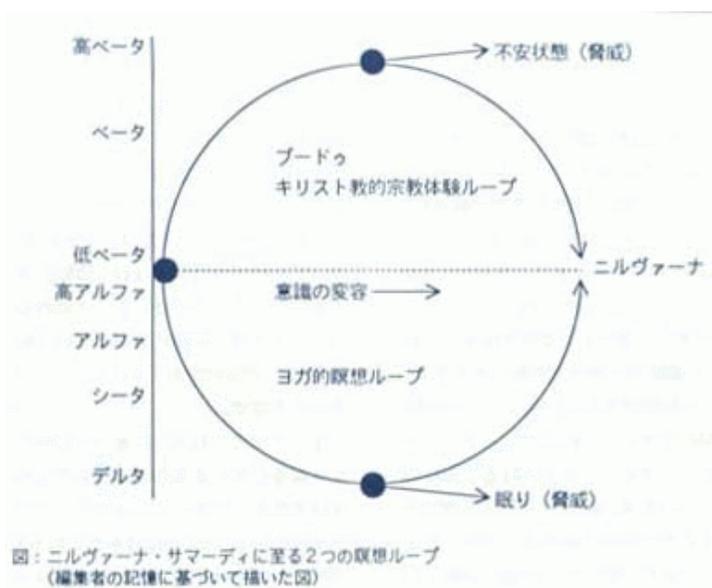
エステス：ええ。感覚遮断は、感覚共振の特殊なケースです。何かと感覚を共振させる代わりに、何物とも共振させない状態なのです。

山田孝男：瞑想において、特にラージャ・ヨガでは、感覚を内側に引っ込めるときに、意識から切り離して行くわけです。意識をあまり乱されないように。たとえば外で音が聞こえても、それにあまり関心を払わないで、内側に引っ込んで行くプロセスなんだよね。それは、催眠によってもそれに似た状態を作りだせるけど。

ヴァイブラサウンドとか感覚遮断とか、外的な手段を借りてそういう状態を作るのと、自らの努力によってそういう状態を作るのとでは、脳に起こっている変化はまったく同じかな。

エステス：すごくいい質問ですね。書いた方がいいかな。デルタ、シータ、アルファ、ベータ。両方向の矢印、シータの方だと緩慢な脳活動、アルファ/ベータだと速い脳活動・・・これは地面に描いてる図だって説明してくれないと(笑)。すごく複雑な哲学的概念を、洞窟の住人みたいに(爆笑)。

Maya：そう、エソテリック・スクールは昔からこうだったよね。



エステス：今のような普通状態の意識だと、脳波はベータ波領域にあります。だいぶ研究されたことですが、ある種の瞑想をすると、脳波がよりゆっくりしたシータからデルタに移ることは分かっています。特にヨガだと、理想はできるだけ活動を静めることで、静まるにつれて活動の高い状態は遮断されます。

これに関しては、たくさんの研究がすでに行われました。これだと、脳活動がどんどん落ち着いて、脳波がデルタになる。特にヨガの場合には、ベータ活動は完全に遮断されることが分かっています。

山田孝男：脳波が消えてしまう。

エステス：サマーディ、ニルヴァーナでは、呼び方はなんであれ、ゼロになります。僕は、これの反対の状況の研究をかなりしました。なぜこの活動の高い方の研究がなされなかったかには、いろいろ理由があります。1つには、計測機器が十分でないこと、それと脳から出る電流が、家庭や事務所の壁ソケットに流れる電流と同じ周波で、妨害が入りやすいことがあります。

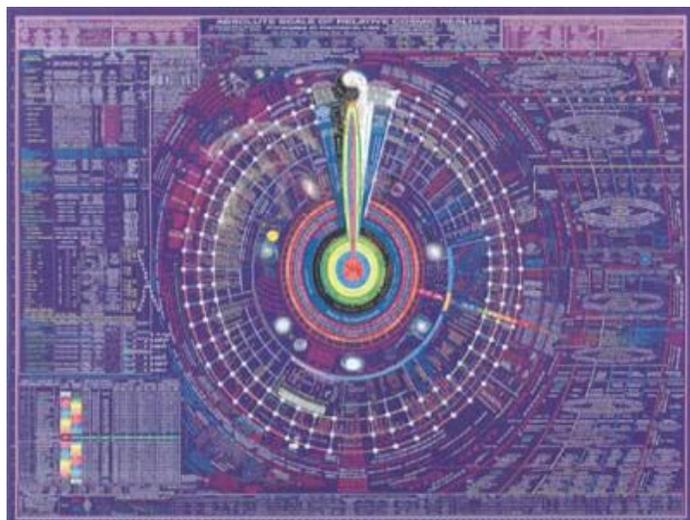
また、精神的指導者たちが、瞑想の指導者でもいいですが、常にこの低い周波にだけ注意を向けていたということがあります。だから私は、たとえば、ブドゥ修行者の精神的体験に興味がありました。というのは、もしこの理論が正しければ、我われの探している脳波をここ（高周波側）に見ることができるはずで

す。またキリスト教者が、教会で精神的な体験をしている場合などにも見られるはずで

す。ですから、ヨギが正しいとするならば、彼らの脳波をこっち（高周波）側でも計測できるはずで

す。ヨギによれば、これが唯一の霊への入り口なわけですから。

高周波側で何が起きているのかを見るために、精巧な脳波分析のための装置（EEG）を作り、あらゆる種類の人びとーヨガを実修する人、瞑想者、キリスト教的体験者、運動最中のスポーツ選手などを計測したのです。ヨギは確かにゼロの方にいました。それから、すばらしいゲームをしているスポーツ選手、霊的体験をしているキリスト教者、ブドゥ修行者、完全に流れをコントロールしているピーク状態での商談や交渉中のセールスマンをも含めて全員高周波の方にいました。



ヴァイブレーション・カラー
チャート

[http://www.style21.co.jp/
brainmachine/product/chart/
chart.htm](http://www.style21.co.jp/brainmachine/product/chart/chart.htm)



戦うべきか逃げるべきか

エステス：そこで、次にこういうことをしようと決めたのです。やり直しです。

我われはいろいろなパターンの中間に位置しているのではないか。たとえば我われは、光の波長のある範囲内しか知覚できていない。その上でも下でも見ることはできない。音でもある範囲内しか聞くことができない。その上でも下でも聞くことができない。温度も一定範囲内の温度しか感じない。ですから我われはすべての中間にはめ込まれている。この低ベータや高アルファは、普通の成人が通常待っている脳波だと思うのです。

それでこの中心のユニット（高アルファ）から、中心空間から訓練を積むことによって、直線的に進む代わりに、円周に沿って進むのではないか。活動をゆっくりにさせればこっち側（下のループ）から、活発にさせればあちら側（上のループ）から、どちらにしても落ち着く先は同じゼロになるでしょう。人間の意識、特に網様体賦活系がこれを支配しています。

たとえば、この中間のレンジ（高アルファ）が普通であるとして、そこに何か信じられないような事件が起きたとします。すると我われの脳活動は覚醒状態になり、こちら側（高周波側）に動きます。このときに網様体賦活系は、これが脅威なのか挑戦なのかを決定する機会をもちます。網様体賦活系がそれを脅威であると判断すれば、この人はこのループをはずれて真っすぐ進み、不安状態に陥り、「戦うべきか逃げるべきか」の態勢になり、エネルギーを単に浪費するに留まります。

何かの事件で通常意識が変容されたときには、必ずその時点で網様体賦活系が活性化し、これが脅威か挑戦かを決定するのです。脅威ではなく挑戦であると決定すれば、このループに沿って無の空間にその人は達します。同じことが反対側でも起こります。座って目を閉じるとか、とにかく脳波を低下させることをすると、網様体賦活系がこの時点でまた何が起こるかの決定権を持ちます。脅威がなければ、ループに戻り瞑想を続けます。もし脅威であるならば、網様体賦活系は超過多活動から遠ざかるようとしているわけですから、デルタの方向に進み、その人は眠りに落ちます。

アーッ、今すごいこと思いついたよ。この図で見られるようなんじゃなくて、MMエイトのシンボルみたいに見えるはずだ。脅威でない場合はこのループ、脅威の場合は向こう側のループ、これが自己破壊でもう1つは自己制御。Wow！無限のシンボルだ。これを見下ろしてると、脳の左右半球が見えるね。ブラーマの洞窟、松果体、脳下垂体、ここでどっちへ進むかの決断を迫られる！（笑）これはすごい。前に見たことがない（笑）。

Maya：マーク（MMエイトの）を作ったときから、インフィニティ（無限）って言ったの。





ヴァイブラサウンド・セッションをより楽しむ方法

エステス：だからどっちへ行くかによって、加速したり減速したりするわけです。ヴァイブラサウンドがどんな状態を生み出すのかというもとの質問に戻れば、ヴァイブラサウンドは、同時に両方向に行ける拡大された状態を生み出すと答えますね。

あといくつかおもしろいことがあります。まず、ヴァイブラサウンドの体験者の脳波を調べてみると、この拡大状況が分かります。シータ、デルタにいくと同時に、ベータとスーパーベータに拡大します。

同じようなデータが禅の瞑想者にも見られました。あるとき実験をして、ヨギと禅の先生の脳波を追う実験をしてみました。彼らが瞑想状態に入った後、大きな物を割るような音をだしたのですが、ヨギの脳波にはそれを認知する様子がまったく見られませんでした。禅の先生はシータ状態を保持しながら、この音に気づいたことを知らせるかのように突出部分が見られましたが、その状態から出てくることはまったくありませんでした。

山田孝男：ヨギは反応していないわけだね。そうするとヨギの場合は眠ってるのに近いわけだね。

エステス：ヨギの状態は、瞑想でもこっち向き（下向きループ）なのです。どんどん活動がなくなって、サマーディに入ります。ブドゥ行者はどんどん活動が高くなって薬も飲むし、走り回り、興奮し、さらに活動レベルが高くなり、ニルヴァーナに入ります。

活動レベルを高めて、変容された意識状態に達する方法は、これまで完全に見逃されていました。ブドゥだけでなく他のいろいろなもの、LSDとか幻覚剤は低活動から入るものではありません。逆の方向から人を変容状態にもって行く方法です。

たとえば、LSDをとった人たちの中には、その体験を脅威と受け止め、このループから外れて、窓から飛び降りてしまった人もいますが、逆にすばらしい体験をしている人もいます。

これはヴァイブラサウンドのためのすばらしい提案なのですが、ヴァイブラサウンドや特に多くの人の瞑想に対する考え方は、活動をさらに低下させて、これらの人たちをこっち側（下向きループ）にもってくる傾向があります。もしヴァイブラサウンドを体験している間、活動が低下していると感じるときに、呼吸法を使って反対方向にもって行くと信じられないような体験をします。たとえば、フイゴの呼吸をすると、意識が両方向に向かって拡大され、この洞窟に両方向から同時に達してすばらしい体験をします。

山田孝男：こっちの方（下向きループ）にくる人は、ヴァイブラサウンドで眠って、よく眠ったって感じで起きるタイプだろうか。

エステス：そうです。逆に向こう（上向きループ）に行く人は、興奮してこんな風に地上を飛び回ったり、鳥肌が全身にたつて、盆の窪の毛もたつてしまったと言うでしょう（笑）。音楽やその人の精神状態、オペレーターのエネルギーなどがすべてこの体験を左右します



ヴァイブラサウンドは意識のローラーコースター？！

エステス：それに、ヴァイブラサウンドを購入する人にも、2つのタイプがありますね。どっちのタイプも、まったく違うタイプであるにもかかわらず、エネルギーがなくて疲れていると言います。最初のタイプは、本当にエネルギーがなくなっている、働き過ぎでエネルギーを使い果たしてしまった人です。

もう1つのタイプは、非常にいろいろ懸念して、常にエネルギーに満ち、発進状態にある人で、このために神経に負担がかかり過ぎ、今にも倒れそうに感じています。この場合はエネルギーがあり過ぎるためなのです。僕みたいな人です（笑）。

その人のことが分かれば、ヴァイブラサウンドをどう使えばよいか分かります。たとえばエネルギーが余っている人が来たときには、「ローラーコースター・ライド」と僕が呼んでいる体験をさせます。これだと体験者をこちら側（高周波側）に押しやります。

本当に過熱ぎみで、ガチガチに緊張している人の場合には、リラックスするような音楽をかけて落ち着かせる方法はまったく使えません。この場合には、この体験者がいる状態をさらに進めて、決断を迫るのです。脅威と感じるか、逆の方向に向いてこの美しい体験をするかと。

これは、ストレス減少法を教える原理と同じで、体内の筋肉を緊張させてから弛緩させるという方法です。同じ考えなのですが、ガチガチに緊張し、興奮している人に怖くなるほどの音楽を聴かせると、さらに緊張してヴァイブラサウンドのベッドの縁に両手でしがみつきます。被らは普段とてもマッチョですから、死ぬほど怖がっているなどとはおくびにも出しません。ただこんな風にしっかりとつかまっています（笑）。

その後、その恐怖を感じるほどの強烈な音楽の後に、とてもリラックスするような音楽を聴かせるのです。つまりこの場合には、最初強烈なスピードで高い活動状態に入り、次の音楽でベッドの縁をつかんでいた手を放して、「あー、良かった。やっと終わった」と弛緩できる状況を体験させるわけです。するとゆるやかな方へ自然に動き出します（笑）。これを我われは“Oh , shit!”現象と呼んでいます（笑）。なぜなら、体験者が度たび”Oh , shit !”と言うからです（爆笑）。



Maya:日本語のニュアンスで言ったら「してやられた！」かしら（笑）。

エステス：それでよく観察して、やわらかい音楽でリラックスしているようであれば、そのまま続けて、さらに深い体験へと等きます。しかし、まだもぞもぞしているようであれば、またローラーコースター・ソングをかけます。そして、揺り椅子の子供を揺らすようにゆすり続けます。どちらの方向へ行ってもいいのですが、回を重ねるごとにますます深く入ります。



脳波と時間の認識

エステス：これよりも良いのは、体験を積んだ人が、どちらか片側から入るよりも、両方から同時にその状態に入ることです。これに関して、最後に言いたいのですが、時間の見方におもしろい関係があるということです。前に話したことがあります、これに関連しては話しませんでした。ここが普通、右側が速い方、左側が遅い方とします。時間の見方はこれらのループのどの場所にいるかによって変わってきます。

実際は脳波活動がゆっくりになると、周りのスピードが増します。そして深い瞑想で、この究極の状態に達すると、すべてのことが同時に起こるという体験をします。

ですから、あなたの脳波活動が低周波に移るにつれて、周囲の印象が加速し、まるですべてがとてつもない速さで起こっている、同時に起こっているように感じられるのです。それは、同時に起こっているのではなく、そういう風に見えるのです。宇宙意識ですべてが同時に起こっているとされるフローなのです。

しかし、加速すると反対のことが起こります。脳波活動が速くなればなるほど、周りは減速していきます。たとえば、ボクサーの脳を調べたことがあるのですが、試合の前に彼と食事をして、その後脳波を測定すると普通の脳波状態が見られます。試合の最中に彼を引っ張り出して脳波を見ると、ものすごく速くなっているのが分かります。彼らの話を聞くと、試合の最中には、他の全員がスローモーションで動いているように見えると言います。事故のときみたいです。

私が事故にあったとき、ガラスの破片が顔をかすめて飛んで行くのが、とてもゆっくりに見えました。それは、僕がものすごく速く作動していたからです。また、セックスの最中にオルガスムに達する前に止めて脳波を見ると、脳波は高い極限の方に集中しているのが分かります。オルガスムの後だと、高い極限も低い極限も見られます。

今、我われを煩わしているハエについても同じことが言えます。彼らの脳波はたぶん、我われの15ヘルツに比較して、200から250ヘルツくらいでしょう。ハエを手で追い払おうと我われはしますが、ハエにとってはそれはとてもゆっくりで、追い落とされないようにするのは朝飯前のはずです。

その代償として彼らは2週間しか生きられませんが、彼らは何も失っていないはずで、非常に速い速度で生きていますから、我われが一生かかって体験することを全部、彼らは2週間でしているはずで、我われは単にゆっくりと長い時間をかけて彼らが短期間ですることをしているだけです。これでどうですか？答えになっていますか？

山田孝男：非常に明確です（笑）。実際はどれぐらいの周波数まで記録してあるのかな。

エステス：60ヘルツくらいまでです。UCLAの研究者であるヴァレリー・ハントは200～300ヘルツまで計測することができました。それからユリ・ゲラーがニューヨークのSQUID（SUPERQUANTUM ULTRA INTERFERENCE DEVICE）マシンのある所で、脳波の測定を受けました。この機械は頭の表面に電極をつけて頭の周りの場を計測するEEGと違って、磁場を計測します。この機械だと超伝導素

子で 100,000 の単位まで測定できます。

ユリ・ゲラーは、サイコキネシスで部屋の向こうにある物体を動かしているときに測定を受けたのですが、そのときは 100,000 ヘルツを記録しました。



ヴァイブラサウンド・ペイビーは独立心旺盛

Maya: 理屈抜きにヴァイブラサウンドは、どういう状況を引き起こしているのかを分らせるようなエピソードがあれば、教えてください。

エステス: ユーザーの話が聞きたいのですか？ 妊娠に関して興味深い話があります。妊娠中の女性が、胎児とともに強い結びつきを感じたと言っていました。

女優のキャサリン・オクセンバーグは、妊娠初期から少なくとも週に 1 回はヴァイブラサウンドを使っていたのですが、すばらしい体験談を披露してくれました。

ある朝起きると、分娩が始まってすぐに病院へ行ったのですが、病院到着後 15 分で出産し、2～3 時間後には母子ともに非常に順調なので、家に帰してくれたというのです。朝の 5 時に家を出て、お昼前には帰宅していたといいます。

Maya: 日本では、ヴァイブラサウンドの振動は非常に微妙だから、妊娠初期において、流産の危険があるかもしれないので、少し気をつけてる。5 カ月過ぎれば大丈夫だっていうけど。もし妊娠をまだ自分が知らないとき、流産の危険性はほとんどないのかしら。

エステス: これは言おうと思っていたのですが、キャサリンは最初からヴァイブラサウンドを使っていたのですが、彼女に使わない方がいいのではないかと提案したことがあります。というのは、僕も同じように感じているからです。

最初の 3 カ月間に赤ちゃんは形成されているわけで、磁場もそれが正常にいくように関係していま

す。もちろん、ヴァイブラサウンドはそのような初期でも悪影響とはならないと思いますが・・・。
というのは、キャサリンの赤ちゃんは正常であるだけでなく、非常に良い赤ちゃんだからです。彼女の報告はすべてすばらしいものです。それでも最初の3カ月間はヴァイブラサウンドを使わない方が良いと思います。

Maya : ひとことで言うと、どんな感じに良い赤ちゃんなの？

エステス : 赤ちゃんは今1歳ですが、1歳にしてはかなり落ち着きがあります。子育てに関してはあまり知りませんし、子供がいつ歩き出すのかも知りませんが、この子は歩くだけではなくて、いろいろこなせるのです。とても機敏で、まわりで起こっていることにもよく気がついてます。まわりの人とのコミュニケーションも十分できるのです。1歳位の子は足がまだ地についていない感じで、お母さんにべったりという場合が多いのですが、この子は放っておいたら一人でどこか遠くまで行ってしまおうでしょう。1歳にしてはとても独立心旺盛です。

Maya : それはヴァイブラサウンドと一緒に体験することによって、母親からの情報が、すでにピシッとつながって流れて行ったということの意味するのかしら。

エステス : 赤ちゃんの感覚器官と感覚刺激への反応に関係があると思います。すでにヴァイブラサウンドを体験して生まれた赤ちゃんは何人にもなるのですが、これらの赤ちゃんは全員とても機敏です。

もうひとつ気がついたことは、今、赤ちゃんというのは親にべったりということが多くと言いましたが、これらの赤ちゃんは頭を何かにぶついたり、倒れたりすることがあっても、2～3秒のうちに普通の状態に戻っています。お母さんに慰めてもらおうとか、泣いたりとかしません。ヴァイブラサウンドの五感への影響でしょう。これらの赤ちゃんはまわりに対して、必要以上に神経質ではありません。環境に対し、あまり堅苦しさがなく、驚威と感ぜることがないようです。



成功するプレイン・スパのコンセプトとは？

Maya : 実際に役立つ情報をありがとうございました。ロサンゼルスにヴァイブラサウンド・サロン「Aha ! Spa」をオープンしたそうですが、それについて、どういうコンセプトでスペースをデザインしたのか、日本のメンバーに紹介していただけますか。

エステス : 構想は、まずインナーセンス社の製品を紹介するショールームとして始まりました。私は旅行することが多かったので、世界中のプレイン・スパを観察する機会に恵まれましたが、多くのスパは問題に直面していました。なぜ彼らが成功しないかの理由は分かっているつもりです。

彼らに機器を提供するよりも、どうすればこれらのスパをうまく運営できるかの見本を見せるのは、私にかかっているのではないかと思ったのです。たぶん、1つオープンして成功する例を人びとに見せなければならぬのでしょう。機器を売るだけでなく、成功のコンセプトを売ることが必要なの

ではないかと思ったのです。

うまく行っていないところには、1つの共通点がありました。それは、個人向けのプログラムがまったくないことです。たとえば、これらのプレイン・スパにはボディ・ソニックが何台かあり、ありとあらゆるライト&サウンド機器がそろえてあります。お客はスパに来ると料金を払って、これらの機器全部を見る機会を待つわけですが、個人的な助力は全然受けられない上に、あまりにも多くの決断をしなければならないようになっていきます。



AHA!SPA

現在は、Venice Beachに移転してHRTスタジオになっている。

我われのスパに来れば、たくさんのライト&サウンド機器から選択を迫られる必要はありません。私がすでに調査をし、1つを選び、これが最高の製品だと思えるものを薦めます。お客は私の長い経験からくる知識に料金を払うか、気に入らなければ他のスパへ行きます。

ライト&サウンド機器を買いに来た人が、あまりにも多種多様な機器を見て混乱してしまい、ついに何も買わないで帰ってしまうのを見してきました。私のところには最高の製品がそろっています。それが気に入らなければ他へ行って、自分で私の助力なしに決断してもらうしかありません。

ですから、私の構想は1回につき1人のお客だけを受け持つスパでした。感覚中枢—この言葉は医学用語で、人の知覚意識の全体性を指しますが—に働きかけることをしたかったのです。

現在、その人のあらゆる面を精密に記すチャート（感覚中枢チャート）を作成中です。通常の年齢・氏名・住所・電話番号などのほかに、身長・体重その他サイズ、星座情報、皮膚温度・心拍数などの生理的情報、生理学的テスト結果などをすべてその人の一覧表に書き込みます。さらに色分析、音楽分析、生理的なもの、たとえば病歴とか、そのときの感情の状態とか、それに脳波分析も入れられるでしょう。

この目的はその人の基礎情報を打ち立てることにあります。これらの情報が集まり、彼らが誰で、何者であるのかが分かったら、次の段階は、彼らがどういう人間になりたいのか、どこに行きたいのかを決定することです。これはある程度、心理分析の領域に入ると思いますが、これについては日本でどんな免許があるのかということとは分かりません。

結果的には、この種のスパを経営する場合、このような分析は専門家に委ねたほうが良いと思います。

1度その人が誰で何者か分かれば、どっちの方向へ進みたいのか、どのようになりたいのかの決断もしやすくなります。それから音楽プログラム、色療法プログラム、周波数療法プログラムを組みます。その人が進みたい方向を考慮に入れて、彼のためのプログラムを組み立てるのです。1回につき1人だけを受けます。

こうすれば、客とセラピストの関係を混乱させるような他の人のエネルギーはなくなります。



日本はオペレーターの宝庫

Maya：確かに、将来ヴァイブラサウンドのオペレーターは、専門家が関わるようになった方がいいだろうと思います。そこでヴァイブラサウンドにはいろんな種類の専門家が関われると思うのね。たとえば今のところどういう専門家を考えていますか？

エステス：現在は、リラックスするために使っている医師、歯医者恐縮症をなくすためとTMJ（編集部注：必要もないのに異常に歯軋りをしたり、あごをきませたりする症状＝ストレスや緊張状態と関係があると見られている）の治療に使っている歯科医、それからあらゆる種類の心理療法家、催眠療法家、マッサージ師、カイロプラクター等がいます。今一番いいのは、非伝統医学に携わっている人たちで、気分よく暮らしたいけれども医者のところには行きたくないという人たちです。

山田孝男：そのシステムを人に教えられるほど熟達したオペレーターはいるの？

エステス：良い質問です。まだ誰もいません(笑)。この会社を始めて以来、ずっと探して来ました(笑)。

山田孝男：それは、人に教えられるくらい良くヴァイブラサウンドに関して知ってる人が現れたときだね。たぶん、もうすぐこれは広まるんじゃない(笑)。

エステス：この「Aha! Spa」ができたのはとても重要なことで、僕自身ももっと学べるし、これまで考えつかなかったような欠陥も突き止められるだろうと思います。長いことやっているうちに、このシステムがどんどん複雑になってきているので、他の人がこれを理解するのは容易ではないでしょう。これを機会に、よくまとめて筋道立てたいと思っています。

なぜなら、これまで誰も議論を吹きかけてこないんです。「ええ、本当にすごいですね」と言うばかりで……。自分の持つてくる知識を実用化しなければなりません、そのためにこのスパを開いたんだと想います。

実際のところ、日本ではそれができそうな人が何人かいると思う。今のところアメリカよりも日本の方に多くいると思う。

ダン・エステス プロフィール

ダン・W・エステス Don W. Estes
科学修士MS. 工学修士MT. I R E .
1950年12月16日 ジョージア州アトランタ生まれ
カリフォルニア州ロサンジェルスに在住
インナーセンス社 (InnerSense 社) 社長

ヴァイブラサウンド開発者
ハーモニック・レゾリューション (HRT) 開発者

詳しいプロフィール
<http://style21.co.jp/brainmachine/history/vs-history.htm>



発行：株式会社エムエムエイト
東京都八王子市東浅川町 917-4-101
<http://style21.co.jp/>